

「深谷市の公民館のあり方について」

提言にあたり

平成22・23年度の深谷市社会教育委員会議の活動は、「公民館」のあり方を主題とし、深谷市における公民館の現状と課題及び解決への方策等について調査研究をした。本調査研究は、公民館の「施設・サービス」、「事業」、「組織」について、委員が3グループに分かれて実施した。それを受けて、定期的に全体会議を開催し、本提言を作成した。

本提言を具現化するためには、各種事項の検討・時間等を要すると思われるが、本提言が深谷市民のために役立ち、親しまれる公民館づくりに生かされることを願っている。

現状と課題

解決への方策

施設・サービス

『施設の格差』について 「岡部」、「川本」、「花園」の3公民館は住民のニーズを満たしていない面がある。	・改築の際に住民の要望を取り入れ、地域格差のない施設・設備の整備を図る。
『居場所づくり』について 誰でも自由に集い談話できるスペースがない。	・多目的室等を開放し、「地域ふれあいデー」として自由に集える居場所を設ける。
『公共施設予約システム』について 公共施設予約システムは周知されているのか。団体登録の手続きが煩雑との声がある。	・利用者の声を取り入れ、より良いシステムにするとともに、市民に周知する。
『公民館だより』について 公民館だよりがマンネリ化している。	・地域住民を加えた編集・発行制度等にする。

事業

『公民館事業の企画運営』について 公民館事業は、文化・スポーツ・趣味的事業等多岐にわたるが、事業がマンネリ化している傾向にある。	<ul style="list-style-type: none"> ・公運審、職員、関係団体との協働による企画・立案づくりを行う。 ・各種事業の事後評価を行い次年度に反映させるとともに、市民にも公表する。 ・趣味的講座等はサークル活動に移行し、新規事業をおこす。 ・人材バンクを設けボランティアの養成・活用を図る。
『多様な学習機会の提供』について 様々な視点からの学習内容が提供されていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の動き・問題をテーマにした講座を実施する。 ・生活の知恵・工夫をテーマにした講座を実施する。 ・地域をテーマにした講座を実施する。 ・自然・生物をテーマにした講座を実施する。 ・家庭教育学級、「親の学習」講座を充実させる。
『明るい地域づくり』について 地域づくりを視点にした事業が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館祭りを充実させる。 ・地域をあげて「3R運動」や「もったいない運動」を実施する。 ・子どもや高齢者へ「声かけ運動」、「見守り運動」を実施する。

組織

『公民館運営審議会』について 公民館運営審議会の選出母体・構成員が異なる。会議回数が少なく、住民のニーズを把握するのが難しい状況である。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育委員を公民館運営審議会委員として加えるとよい。 ・公民館運営審議会委員の役割・位置づけを明確にする。 ・公民館運営審議会の開催回数を増やすとともに、関係団体の意見を会議に反映させる。
『職員体制と事業』について 職員に対して事業量が多い。また、職員の在任期間が短い。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業量、事業内容の検証・見直しを行う。また、事業・予算措置・職員の適正配置を行う。 ・社会教育主事資格を有する者等を配置し、4～5年の任期にする。 ・「公民館支援人材バンク」を組織化し、人材を確保する。 ・事業の実施について、主催事業と共催事業を明確にする。
『公民館相互の連絡調整業務』について 深谷公民館が中央公民館として機能していない。また、12公民館での職員研修等が実施されていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・深谷公民館が中央公民館としての機能を発揮するとともに、調整役としての役割を果たす。 ・深谷市公民館協会等において職員研修を定期的に行う。
『公民館と分館』について 公民館と分館の位置づけが明確化されていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館と分館の連携、協力を行う。 ・分館相互の連絡調整を行う。 ・分館長へ管理・運営者としての研修の機会を提供する。 ・地域活性化のための教育システム（講座、研究会、情報提供、情報交換等）を確立し、分館長や地域ボランティアに提供する。